龍ノ口山の先史時代から飛鳥時代

富　岡　直　人

一論文要旨一

岡山市中区にある龍ノ口山の先史時代から飛鳥時代の様相を，フィールドワークの成果も織り交ぜ考古学的に論じた。現在，龍ノ口山は豊かな自然環境が豊富に残されているが，これは先史時代以来貴重な木材の供給源として守られ，古墳時代以降は墓域が設定される聖地として利用され，さらに飛鳥時代以降は吉備氏の系譜にある上道氏が付近に政治・文化的拠点を置き，豊かな自然の資源を供給する場所として守られたことが影響している。

キーワード：岡山県，岡山市，龍ノ口山，旭川，岡山平野，旭東平野，考古学

はじめに

龍ノ口山は竜ノ口山とも表記され，岡山県岡山市中区に所在する（図１，図２）。本稿では地名として通用される率の高い龍ノ口山の名称を用いるが，一方で国有林や遺跡名称として「竜ノ口」という名称が用いられており，その場合はその慣習に従った。

この山は四つの頂を有する山塊で，繋がった山容を龍にたとえれば，その北西部はあたかも口の部分のように豊かに旭川の水を吐き出し，南流させる水態を示す。

岡山理科大学生物地球学部生物地球学科の地理・考古学系では，岡山森林管理署や龍ノ口グリーンシャワーの森を守る会に協力を頂き，この地域について繰り返し遺跡分布調査・測量を行い，測量成果を積み，知見を集めてきた。本稿では，その成果を盛り込んでいる（註1）。

１．自然的景観

上記の山容水態から，この山は龍ノ口山と呼ぶのに相応しい特徴を備えている。図１は開発が未だ軽度な1895（明治28）年の龍ノ口山周辺の地形図で，龍ノ口山山系の東南側の平野部には条里制遺構の名残がみられるが，西南側の平野部は河川の影響で地形が乱されていることが看て取れる。このように旭川は吉備高原を削って豊富な土砂を押し出し，更新世には水域であった地域を埋め，自然堤防・後背湿地といった自然地形を形成した。旭川の堆積作用により龍ノ口山の西側（図１北部～西部）には扇状地の扇頂が形成され，その下流には西日本有数の扇状地・沖積平野である岡山平野が形成された。この岡山平野は便宜的に現在の流路を中心に旭東平野と旭西平野と分けられ，図１は旭東平野の北部の一部分を切り取っている。龍ノ口山は社会的な地の利にも恵まれていたが，それは自然環境の条件の良さからもたらされたもので，この周辺から旭川を下れば，５km程度で汽水域，７km程度で児島湖，そして15km程度で瀬戸内海域に容易に移動できる。時に荒れ狂う旭川の激流より龍ノ口山によって守られた南麓と旭東平野は，長らく備前の中心域として利用され，先述の通り一部に古代条里制の遺構も残されていた。また，旭川の水害を恐れ，近世には放水路の百間川が整備され，京都祇園社より勧進された素戔嗚神社が付近の旭東平野に建立された（図１西部の祇園）。一方で扇頂付近では旭川合同堰を含め複数の用水施設が設定され，岡山平野を潤す役割を担っている（図１の旭川，百間川以外の水路のほとんどは用水施設）。

令和の新時代において，岡山平野は益々市街化が進み，開発の槌音が盛んに響き，マンションの高層化から空が四角形に変容し，小道までアスファルトで覆われつつある。そのような中であっても，龍ノ口山は貴重な自然環境を有する場として市民に親しまれ，休日ともなると多くの市民が訪れる。さらに，「竜ノ口山アラカシ植物群落」が龍ノ口山の一部に設定され，周辺地域で数を減じつつあるヒメボタルが飛翔し，植物では絶滅危惧種Ⅰ類とされるキビヒトリシズカが繁殖するほど豊かな自然が残されている。なお，後述する通り，このアラカシは先史時代以来旭東平野で利用されてきた木材である。

このように豊かな自然景観が守られ，伝えられて来たのは先史時代には貴重な木材の供給源として重用され続けたこと，さらに古墳時代以降には木材の供給源のみならず，古墳の築造等墓域を設定する聖地とされたこと，古代においては吉備氏の系譜にある上道氏の政治・文化的拠点，中世には備前の拠点的な城，近世には岡山藩の木材資源を供給し，さらに岡山城の丑寅の方位を守る御林として守られたという歴史的な聖域だったからこそといえる。

２．龍ノ口山の縄文時代

更新世から完新世になり，海水準の上昇に伴い龍ノ口山の周辺には瀬戸内海の塩水域と汽水域が接近した。このように岡山平野が汽水域に近接した状況は，弥生時代迄やや趣を異にしながら継続した。縄文時代前期の貝塚が龍ノ口山東矢津にあったとする伝承が残るが実態は不明で，岡山県内の遺跡地図（図２東部）には未詳未命名の貝塚として記載されている（No.1742，以下カッコ内のNo.は岡山県教育委員会が設定した遺跡番号＝図２の遺跡番号<岡山全県統合型GIS　埋蔵文化財（遺跡）とも互換性がある>を指す）。もし貝塚の存在が事実であり，かつ貝種が汽水生息種ならば，あるいは龍ノ口山周辺に汽水域が広がっていたことを裏付ける可能性もあり，縄文時代の岡山平野のあり方に重要な知見をもたらすものとして解明が期待される。

岡山平野で発掘された縄文時代の前半期の遺跡には，龍ノ口山の西方約２kmの旭西平野と半田山山塊の交わる地点に残された朝寝鼻遺跡（羽島下層式，北区津島東）が挙げられる。この遺跡も住宅開発や用水の護岸工事に埋もれ，一時期「幻の貝塚」と呼ばれたが，1997年の調査によって，実態が把握され，以前から知られていた貝層に加え，貝層を伴わない前期の包含層も把握された［富岡1998］。この朝寝鼻遺跡からは，縄文時代前期初頭（約7000年前）の遺物と堆積層が出土した。前期初頭の層は現地表より約２m掘り下げて検出されたもので，標高にすれば約2.5mであり，この周辺の山裾には他にも縄文時代の古い遺跡が埋存している可能性を示唆している。この地層からは火を受けたイノシシやニホンジカの骨格と縄文土器や石器が出土した。また，同じ朝寝

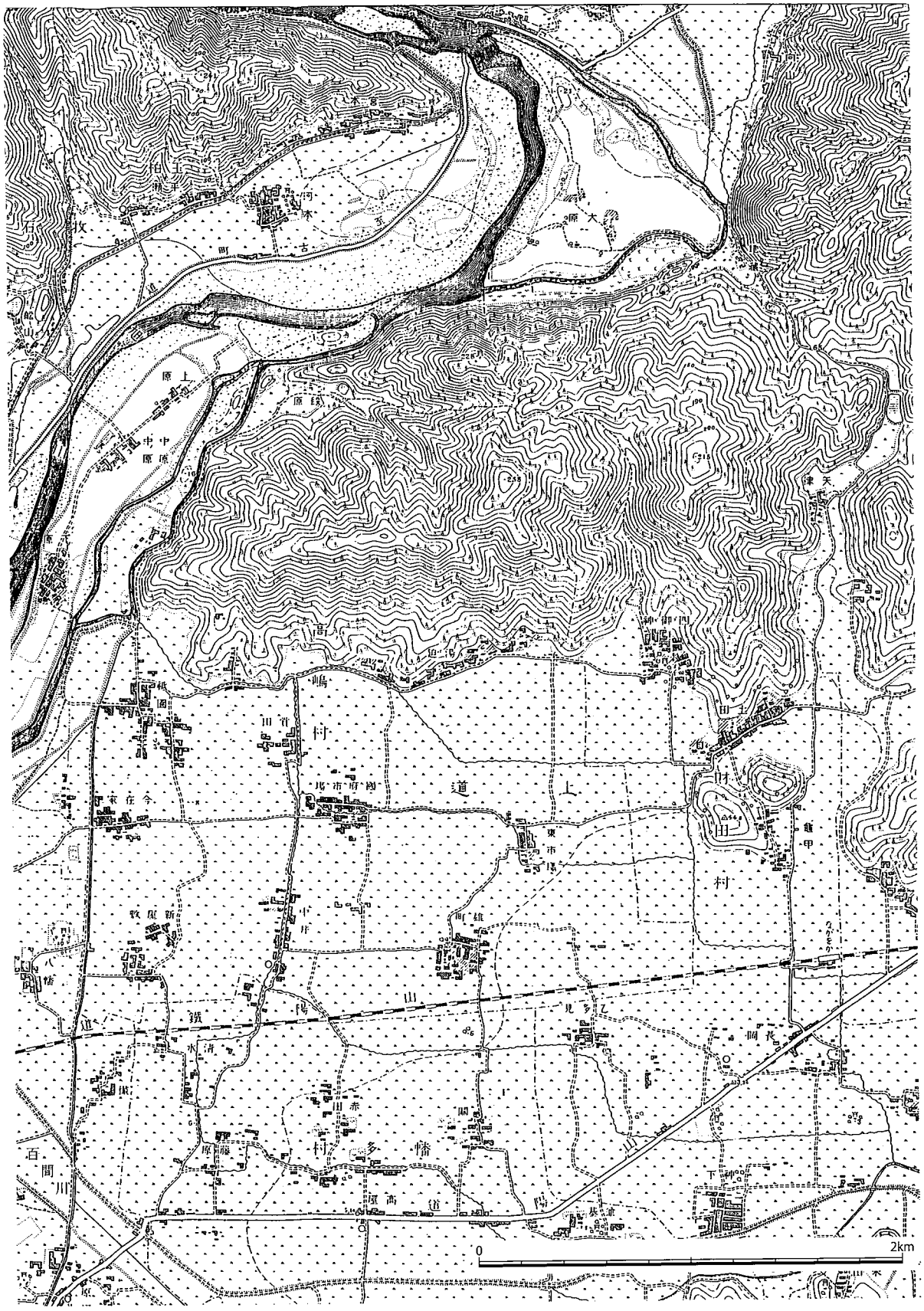

図１　龍ノ口山周辺の地形図
（岡山県東南部，岡山近傍十五號明治二十八年測圖，岡山市中央図書館蔵書）

図２　遺跡分布図（『岡山県遺跡地図　第６分冊　岡山地区』2003より）

鼻遺跡の約１m50cm上方の地層からは後期の貝層である，いわゆる朝寝鼻貝塚も発見されている。この貝層からはヤマトシジミやハイガイ，塩水～汽水に生息するエイ目，淡水魚のナマズ，陸に生息するイノシシ，ニホンジカ，ニホンザルといった動物遺存体が検出され，この周辺の動物相を伝えている。

その後の旭東平野の縄文時代の遺跡では，百間川遺跡群が挙げられる。縄文時代中期の土器が百間川沢田遺跡（百間川の下流1.5km程）より検出されているが集落の様相は把握できていない。百間川沢田遺跡で後期の遺物・遺構，百間川原尾島遺跡（百間川の下流約１km）では，縄文時代後期の焼土面や土器溜まり，晩期のドングリピットや土器が出土した。雄町遺跡（図２南部，No.1707）では縄文時代晩期の集落が微高地で検出されている。特に，周辺の環境を詳細に示す遺物がみつかったのは百間川沢田遺跡である。この遺跡の縄文時代晩期の層と貝塚からは，クロダイ属（クロダイ・キチヌを含む可能性がある），スズキ，ボラ，エイ目といった海水～汽水，一部は淡水に進出する魚種，淡水魚のナマズ，水域に飛来するカモ科，湿地から平原，山地に生息するヘビ類，陸に生息するノウサギ，アナグマ，ムササビ，イノシシ，ニホンジカ，ニホンザルが出土している。また，植物では樹木が多く検出され，現在岡山平野でみることの少ないイチイガシやトチノキの実も含まれ，豊かな森林相が広がっていたことと，外来種のアサやササゲ属が含まれること，本遺跡を含め周辺の晩期の遺跡からは，太形蛤刃石斧や打製石鍬，石庖丁形石器等も出土しており，縄文農耕の片鱗がうかがわれる（ただし，百間川沢田遺跡の晩期の層からはイネ等のプラントオパールは検出されていない）。

また，旭西平野では津島地域でドングリ類を伴うドングリピットや土留遺構を伴う津島岡大遺跡（後期）が発掘されている。砂川を挟んで断続的に北東に続く山なみを辿ると６km程離れた岩尾山の北側の低地に縄文時代晩期の南方前池遺跡（赤磐市県指定史跡）がある。こちらもイチイガシやトチノキの実を入れたドングリピットが発見されている。

さらに龍ノ口山の東南の沼地区に目を転じれば，汽水域に生息するヤマトシジミに汽水域～塩水域に生息するカキ類と干潟に生息するヘナタリ類を交え，わずかにハイガイを含んでいたとされる縄文時代前期の沼貝塚が存在していた。本貝塚からは，イノシシ，シカ，タイ類も出土していたとされている［木村1973］。

以上のように，旭東平野周辺では，縄文時代晩期には農耕具や農地の開発を進め農耕を開始したが，一方で従来のドングリ類の利用も継続しており，食糧資源の安定的な確保を意図し，タコ足的生業が続いていたと推定される。

３．龍ノ口山の弥生時代

龍ノ口山山塊の北側では，段原の集落の北方の八幡宮参道尾根の先端（No.1578）で弥生土器が採集されており，集落や弥生墳丘墓の存在が推定される。また，グリーンシャワーの森の入り口，段原の集落の南側の斜面でも弥生土器やサヌカイトが採集されており，集落の可能性がある。ただし，集落といっても広い農地を確保するのはやや難しい立地と推定される。龍ノ口山山塊の南側では四御神の上の山１号周辺遺跡（No.1675）で弥生時代の遺構と弥生土器の散布がみられた。

このように龍ノ口山に近い地点で遺跡が増える現象は，縄文時代と比べ平野部での森林資源が減少し，弥生時代により多くの木材を求め山地の龍ノ口山が利用されたことを間接的に示していると考えられる。求められた木材は，縄文時代に引き続き木製品や建築部材，燃料として利用されたものと推定される。

また，旭東平野の中でも龍ノ口山に近い雄町遺跡（No.1707）では弥生時代中期～後期の竪穴住居（円形・不整円形・隅丸方形）や土壙墓群，井堰，後期中葉の直径10mを超す大形住居が出土した。さらに集落の中と推定される地点から銅鐸が埋納された状態で検出された。

旭東平野の百間川沢田遺跡では，弥生時代前期と考えられる90×100mもの大きさの環濠が検出され，この集落が戦闘を意識した防御的集落ということが指摘されているが，先述の通り暴れ川の旭川を恐れて造営された可能性も看過できない。弥生時代中期には先述の百間川沢田遺跡・兼基遺跡・今谷遺跡は豊富な遺構・遺物を出土している［高畑他1982，平井他1996，高田他2007］。それ以外にも弥生時代中期には赤田遺跡（赤田東遺跡・西遺跡（No.1712））や乙多見遺跡（No.1717）が形成され，遺物は勿論，竪穴住居，掘立柱建物，土壙，溝を伴う遺構群が検出されている。

この弥生時代中期以降には，河道や低地について河川の堆積作用（洪水を含む）による埋没が顕著で，それを反映して集落と水田の拡大が進んだ。

あらためて整理すると，龍ノ口山に近い国府市場の北口遺跡（No.1692）や備前国府推定地（南国長）遺跡（No.1690），天神河原遺跡，清水遺跡（No.1715），中井・南三反田遺跡（No.1694），赤田遺跡（赤田東遺跡・西遺跡）（No.1712），関遺跡（No.1718），東岡山遺跡（No.1777）等数多くの弥生時代の遺跡が旭東平野に分布している。遺構が稀で，性格不明の土壙や溝，土器がわずかに出土する，という様相もあるが，いずれにせよ，この旭東平野を開拓・開発した痕跡とみることができよう。

旭西平野では弥生時代初頭の江道遺跡で水田遺構が検

出されているが，灌漑施設の様子は十分わかっていない。前期初頭には津島遺跡が形成され，旭東平野と同じく水田の形成が確認されている。

龍ノ口山に近い中井・南三反田遺跡での花粉分析では，マテバシイ属，コナラ亜属，エノキ属等の樹木花粉，イネ属やカヤツリグサ科，ヒユ科，ヨモギ属等の草本花粉が出土している［桑田1994：pp.33-35］。

４．龍ノ口山の古墳時代

古墳時代には，龍ノ口山に多くの遺跡が残されるが，その多くは古墳であり，龍ノ口山には90基，山王山には20基，操山には120基もの古墳が記録されている。

また，周辺の遺跡から出土した柱根の樹種の研究では，古墳時代の百間川沢田遺跡の竪穴住居ではカヤ，アラカシ，赤田東遺跡では，古墳時代後期の掘立柱建物でカヤ，コウヤマキが検出されている［藤井2015］。カヤ，アラカシについては，現在でもアラカシ群落がある龍ノ口山は勿論，操山や周辺地域で調達された可能性が推定される。一方，山地で伐採されることが多いコウヤマキが当時どこから調達されたのか不明である。この樹種については，龍ノ口山での調達は難しかったと推定されるので，旭川や瀬戸内海を利用した木材資源の調達が既にあったことを想定したい。

ａ．古墳時代前期

岡山平野周辺での前期古墳は中規模で丘陵に築かれている特徴がある。

備前車塚古墳（湯迫車塚 No.1649）が最古級の古墳として龍ノ口山東麓のひとつの頂端，標高138.3mの位置に残されている。３世紀末～４世紀初頭に築造されたと推定される二段築成前方後方墳で，前方部はバチ型，特に南側の隅部がやや斜面を下る形である。1956年に盗掘にあった後，1967，1968年に岡山理科大学と岡山大学の発掘と測量の調査が行われた。図３は，岡山県史の測量図［近藤。鎌木1986，以下「県史」と略す：p.229］を改変したものである。原図は，葺石が表現されていなかったことから，表面調査で数次にわたり葺石の分布を測量したが，葺石全体が膨大なため，全てを描けてはいない。

この前方後方墳の全長は47m（県史は48.3m），前方部は後幅25.5m（県史は24.5m），前幅23.5m（県史は23m），長さ約26m（県史は約26.5m），前方部は長さ23m（県史は21.8m），くびれ部幅10.5m（県史は約11m）で前面幅は23.5m（県史は約22m）である。列石状に葺石が墳丘を二段に巡り，後方部に竪穴式石槨が構築されている。石槨は全長5.9m，幅1.3～1.2m，高さ1.5mであった。盗掘の際に京都椿井大塚山古墳と同氾の三角縁神獣鏡11面とほか鏡２面（内行花文鏡，画文帯神獣鏡）を出土。多くの副葬品が出土した。

内部主体となる竪穴式石室は，尾根の岩盤を掘り割って後方部のほぼ中央に主軸と直交して造られた。石室の長さは5.9m，幅は1.2m，高さは約1.5mで付近から調達されたと推定される割り石積み構造で，用いられた礫は周囲に産する自然角礫と推定される。後方部頂を主に壺形その他の古式土師器片が出土した。石室の上面は天井石８枚で覆われ，内部の粘土床には貝殻灰が混ぜられ割竹形木棺が据えられていた。

先述の三角縁神獣鏡は，大和政権がその影響力を全国に及ぼすにあたって，各地の首長に鏡を分配したとする説のあるもので，椿井大塚山古墳等前期古墳から出土した鏡との同笵関係から社会を論じた，「同笵鏡論」の重要な基準資料である。そのほか，鉄刀，鉄剣，鉄鉾，鉄鏃，鉄斧，短冊形鉄斧などの鉄器も出土している。本古墳はそれほど大きな古墳でないものの，豊富な副葬品が出土したことから，この周辺の首長墓と推定される。

さらに，龍ノ口山の南側に位置する山王山では，丘陵頂部に前方後円墳の宍甘山王山古墳（墳長68.5m，後円部径39.5m）が築かれており，これは箸中山古墳（奈良県桜井市）と墳形のアウトラインが約四分の一で似ると指摘されている。

龍ノ口山の南側に立地する操山山塊の標高110mの金蔵山の頂部には前期終末～中期初頭（４世紀後半～５世紀初頭）の前方後円墳，金蔵山古墳が築造された。この古墳は墳長165m，後円部径110mで，岡山県において４番目の大きさで，築造時は中国四国九州でも最大規模と推定される規模であり，古墳の位置を熟知していると，旭東平野の広い範囲でこの古墳を拝めることに気が付く。

最近は榊原病院が移設された上に，隣接地に大型商業施設が建設され，その威容がやや小さく感じられる様になってしまったが，旭西平野では前期後半と考えられる神宮寺山古墳（北区中井町，三段築成前方後円墳，墳長推定150m，後円部径約75m，後円部高約13m）が旭川に近い沖積平野にそびえている。

ｂ．古墳時代中期

前期にみられた前方後円墳が５世紀頃には少なくなる。この時期の古墳には，龍ノ口山では四御神上の山１号墳（No.1674）が挙げられ，隣接する領域では南側にある操山古墳群の旗振台古墳（一辺27mの方墳）が挙げられる。

上の山１号墳は，四御神を望む龍ノ口山南麓の尾根上に築造された一辺約12.8mの二段築成で列石状の葺石が廻る形状を示す方墳であった。葺石は，付近で産する自然角礫が用いられている［岡山市教育委員会1974］。

旭西平野の半田山の西麓では，中期中葉に一本松古墳（北区法界院，墳長65m，後円部径43m，後円部高６m），

半田山の南側に塚の本古墳（北区津島，墳長約30m）が築造されていた。

c．古墳時代後期・終末期古墳

古墳時代後期は，多数の群集墳が周辺の山麓に残された時期である。

龍ノ口山に展開した古墳群は，龍ノ口山山頂古墳群（No.1599～1638），湯迫古墳群（No.1639～1646），四御神古墳群（四御神奥池，四御神谷口を含む，No.1653～1672），塩見塚古墳群（No.1573～1576），矢津古墳群（No.1729～1739），龍ノ口山グリーンシャワーの森古墳群（No.1581～1587）という６つのグループに分けられる。この内横穴式石室の状況が把握されているものは60基程度である。

c－1　竜ノ口山頂古墳群

龍ノ口山山頂付近に展開する竜ノ口山頂古墳群は，40基が埋蔵文化財地図に登録されており，中形石室（幅1.2～1.7m）が２基，小形石室（幅0.8～1.1m），極小石室（幅0.7m以下）が20基近く集まっている［岡山市教委1974］。

２号墳は比較的山頂に近く直径５～10m程の円墳で周溝が良好に残っているが盗掘により石室は大きく損壊し，天井石が失われている。側壁は比較的良好に残されている。

c－2　湯迫古墳群

龍ノ口山南～南西麓に展開する湯迫古墳群は８基が確認され，規模としては中形石室（幅0.8～1.1m）と推定される。この古墳群の西端にあたる位置に口述する終末期古墳の唐人塚古墳が存在する。

c－3　四御神古墳群

龍ノ口山東麓の四御神の谷と周囲の山麓に展開するものが四御神古墳群である。16基が確認されており，ゴンドウ（権藤，あるいは金堂？）塚古墳で墳丘直径約25m，大形横穴式石室がみられ，それ以外も中形石室がみられた。

矢津古墳群は矢津の谷と周辺の山麓に12基の大形石室（幅1.8～2.2m）と中形石室（幅1.2～1.7m）が確認され，この内二基が須恵質の陶棺を有しているとされる［岡山市教委1974］。

c－4　塩見塚古墳群

岡山市東区矢津に４基の横穴式石室を伴う古墳がみられ，そのうち１号墳と２号墳の２基が中形の横穴式石室であった。

c－5　龍ノ口グリーンシャワーの森古墳群

龍ノ口グリーンシャワーの森古墳群は龍ノ口山北西麓に位置し，標高約20～40mの地点に近接して７基が確認されており，No.1581～1587として登録されている。各古墳が近接していることから，どの古墳がどの番号か見分けにくい程である。現在明確に石室の石材が確認できるのは５基である。低地域に近い地点に築かれたことも災いし，一部は第２次世界大戦直後に炭焼き窯に転用さ

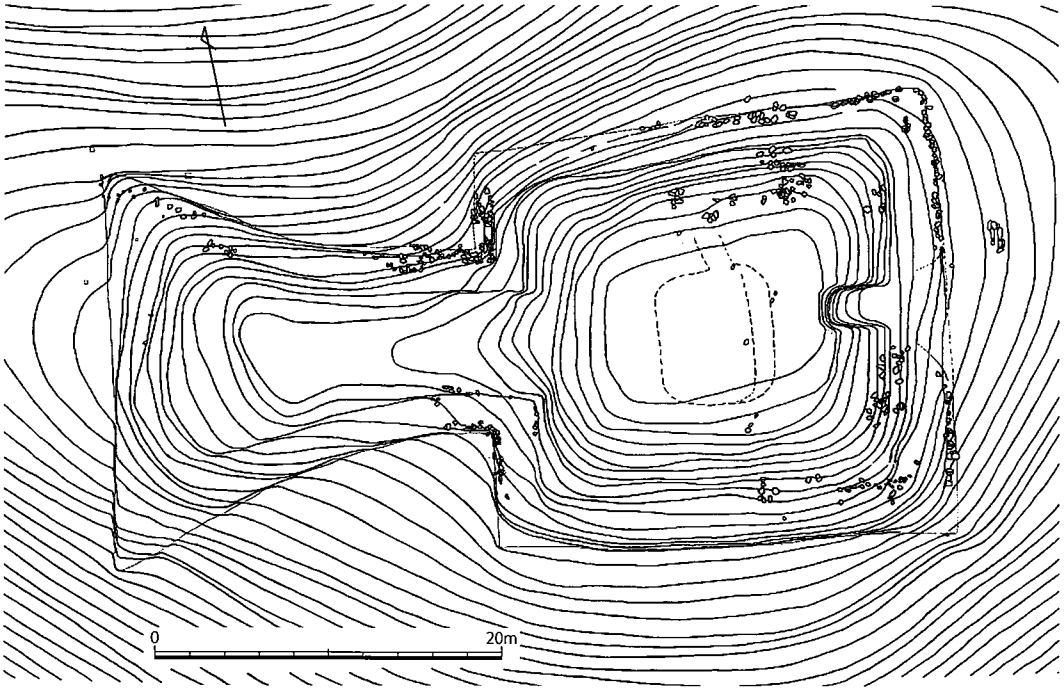

図３　備前車塚　平面図　（近藤・鎌木1986図231より一部改変）

れ，全ての石室は天井石を失う深刻な破壊を受けているものの，多くに周溝がみられ，古墳の裾部は比較的良好に残されている。

この古墳群は標高が低い方から１～７の番号が振られている。

龍ノ口山グリーンシャワーの森１号墳（No.1581）は，直径10mの円墳で，横穴式石室を伴うが石室は全壊されている。羨道部と思われる石材が一部残存し，周溝がみられるとされるが，残存状況は不良である。

龍ノ口グリーンシャワーの森２号墳（No.1582）も直径16mの円墳で横穴式石室を伴うが，ほぼ全壊している。中央に大きな窪みがあり，石室石材と思われる石が露出している。山側に幅３m程の周溝が残されている。測量調査成果を図２に示す。２号墳は，幅２～３m程の周溝が確認された。墳丘の南側５m程を遊歩道に削られている。中央やや北寄りの主体部には上部から深さ１m以上，広さ0.6×0.4mの窪みが確認され，盗掘孔であった可能性が推定される。その中に天井石が残っており，東壁の側壁が確認された。墳形・横穴式石室の構造・立地からみて古墳時代後期６世紀後半頃に築造された円墳と考えられる。

龍ノ口グリーンシャワーの森３号墳（No.1583）は，直径５mの円墳で，横穴式石室を伴うが全壊されている。上部は削平のためか墳丘は低く，周溝がみられる。

測量調査成果を図３に示す。３号墳は，墳丘の直径が約11mで，周囲に５m程の周溝が観察された。墳丘の南側を遊歩道に削られている。墳形等から考えて，本来は横穴式石室があったと推定され，墳形と立地からみて，古墳時代後期６世紀頃に築造された円墳と考えられる。

龍ノ口グリーンシャワーの森４号墳（No.1584）は，直径15mの円墳で，横穴式石室を伴うが全壊されている。

龍ノ口グリーンシャワーの森５号墳（No.1585）は，直径10mの円墳で横穴式石室を伴うが全壊されている。墳丘は谷側の１/３を道に切られている。

龍ノ口グリーンシャワーの森６号墳（No.1586）は，古墳時代後期，グリーンシャワーの森駐車場からの谷筋の道沿い。墳丘10m。横穴式石室全壊。墳丘中央を道に切られる。北側に煙突が付けられており，炭焼き窯に転用され，墳丘中央を登山道に切られている。主体部は既に盗掘を受け，１m程の深さの窪みが痕跡的にみられる。主体部に空けられた窪みには石室の痕跡は残されていないが本来は横穴式石室であったと推定される。墳形と立地からみて古墳時代後期６世紀後半頃に築造された円墳と考えられる。

龍ノ口グリーンシャワーの森７号墳（No.1587）は，古墳時代後期，横穴式石室全壊。グリーンシャワーの森駐車場からの谷筋の道沿い。中央に窪み。谷側の１/３を道に切られている。主体部に空けられた窪みには約1.5mの長さの亜角礫が露出しており，石室の一部であると考えられ，本来は横穴式石室であったと推定される。

c-6　龍ノ口山１号墳

龍ノ口山１号墳（No.1580）は２号墳とともに龍ノ口山北西麓に独立的に築造された古墳時代後期終末６世紀末の古墳と推定される横穴式石室を有する円墳である（２号墳は遺跡登録番号なし）。近接するグリーンシャワーの森古墳群と同じ尾根にありながら反対斜面の裾部に築造されている。北西部や南部の一部が土取りされており墳形が大きく損ねられているが，本来は直径約16～20mと推定される。段原集落から龍ノ口山系に向かって北から南に入り込む谷筋の南斜面に存在。古墳の北側は大規模に破壊されているが，東南斜面に明確な周溝が残されている。長さ4.6m幅２mの玄室を伴う片袖式で大形の横穴式石室を有している。

西側に埋存する羨道の石列がみられるが規模ははっきりしない。西側のやや窪んだ地形に人工的に配置された石列がみられるが，これらはこの古墳に伴うものとは考えにくい。立地から考えて中原周辺の旭川流域を治めた有力者の古墳と推定される。

c-7　その他

龍ノ口山の南側の旭東平野の平坦部，標高約４mの地点にある中井・南三反田遺跡（No.1694～1702）では1992年の発掘で５世紀後半～６世紀前半の古墳13基（方墳６基，方墳と推定されるもの５基，円墳２基）と周溝のみ検出されたもの１基が発掘された［桑田1994］。

この古墳群の分布範囲は発掘された区画（東西約100m，南北約90m）の中でも集中的で，地形から推定しても東西600m，南北100～150m程におさまると推定され，古式群集墳とも呼ばれるあり方とされている［桑田1994：p.30］。

c-8　唐人塚古墳

終末期古墳とは，政治史・畿内の文化史的には飛鳥時代（592～710年）を迎えて以降の７世紀の古墳を指す用語である。

この７世紀初頭の古墳として龍ノ口山南麓裾部の唐人塚古墳（賞田，No.1590）が挙げられる［伊藤1986］。墳丘は開墾・造成のため本来の墳丘の形状を留めないが，円墳なら墳径約25mと推定され，南に開口する羨道を有する両袖式の横穴式石室が現存する。巨石が用いられた亜巨石墳に分類され，型式的に畿内の岩屋古墳型の一種とみなされている。石室は全長約９m，奥壁部の幅2.3m，玄室は二段積，羨道は一段積である。玄室内の奥壁寄りに，播磨竜山石製と推定される凝灰岩製の刳抜式家形石棺（長さ2.2m，高さ0.4m，幅1.2m）の身部分のみが残

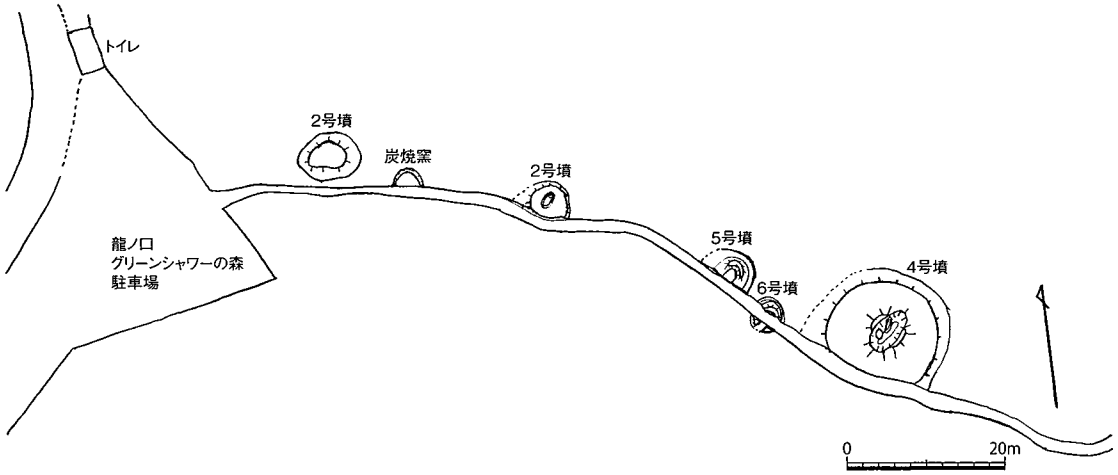

図４　龍ノ口グリーンシャワーの森古墳群分布図

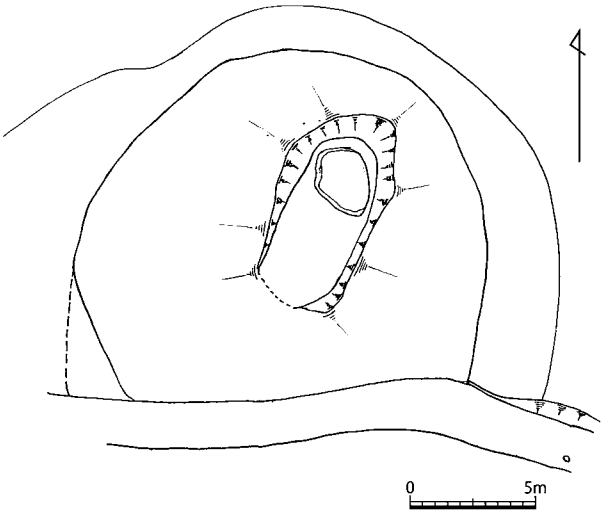

図５　龍ノ口グリーンシャワーの森２号墳　平面図

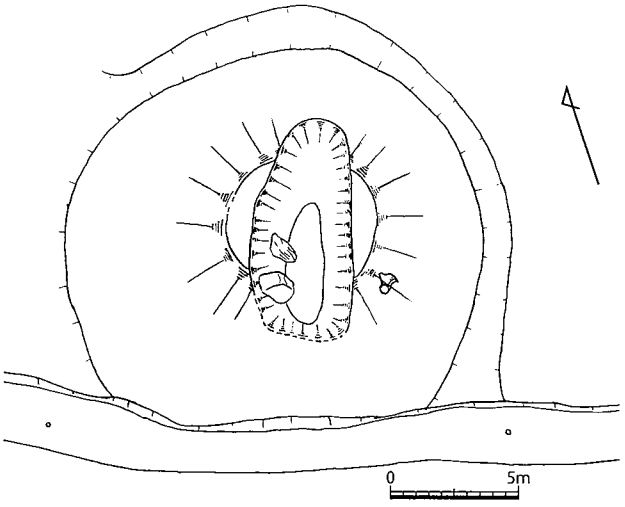

図６　龍ノ口グリーンシャワーの森４号墳　平面図

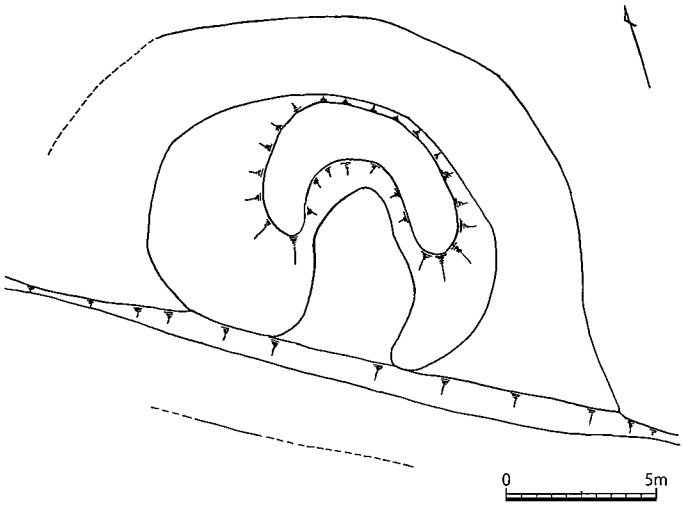

図７　龍ノ口グリーンシャワーの森５号墳　平面図

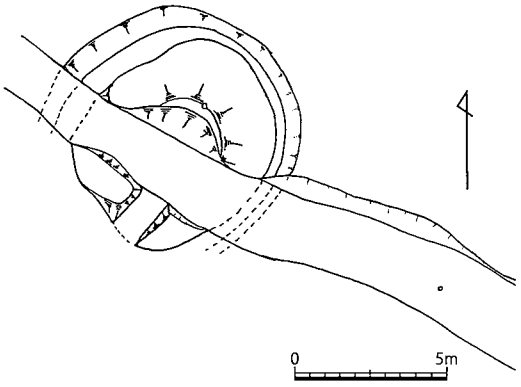

図８　龍ノ口グリーンシャワーの森６号墳　平面図

されている。出土遺物は知られていない。切石の様な形状の巨石が用いられた点は，岡山県南部では類例の少ないものといえる。その結果，後述する様に近接する賞田廃寺の建立を行った上道氏と関連を有する可能性が指摘される。

5．飛鳥・白鳳時代

龍ノ口山南麓山裾部にあり，先述の唐人塚古墳と約100m東に隔たった賞田廃寺（賞田，No.1594）は，東西に二つの塔基壇・金堂基壇・築地遺構が検出されている。金堂の背後の傾斜まで確認調査が実施されたが講堂が発掘されなかったことから，古代寺院としては特異な伽藍配置といえる。また，背後に瓦窯（No.1595）も発見され，周辺には関連した遺構の広がりが予想される。史跡整備に伴いトレンチが多く設定されたものの，不明の部分も残している。出土遺物には多数の瓦があり，飛鳥様式（素弁蓮華文７世紀中葉頃）の軒丸瓦，白鳳時代前半から奈良時代にかけての多様な瓦のほかに，奈良三彩・緑釉陶器を含むやきものが多い。また，これらの遺物の優秀性とともに壇正積（だんじょうづみ）基壇が建築に用いられていることは当時の吉備地方では珍しく，備前を統治した上道氏と関わる寺院であると推定され，山陽道の支道が約700m南を通ることと併せ，龍ノ口山南麓と旭東平野が上道氏の重要な拠点であり，北に墓域や寺域，南に住居が配置されたと考えられる。

また，旭東平野には幡廃寺があり，岡山県下で最大の塔心礎が残されている。この遺構は国史跡に指定されている。周辺は宅地化が進み伽藍を偲ぶ術はない。この廃寺からは７世紀末の複弁八葉蓮華文瓦等が出土している。この寺院は上道氏あるいは秦氏とのかかわりが推定されている。

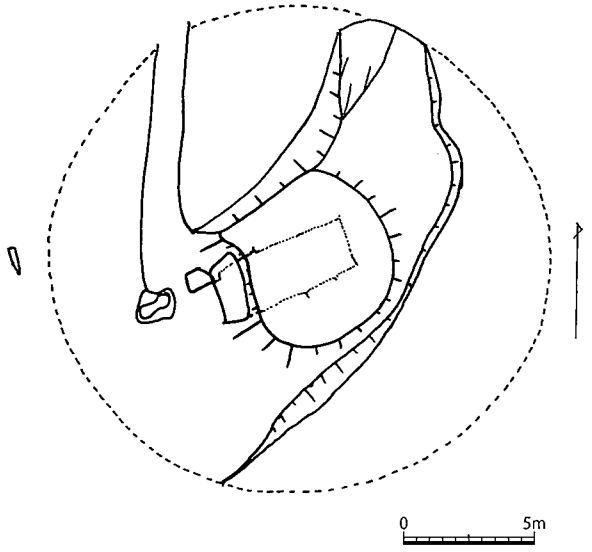

図９　龍ノ口山１号墳　平面図

『日本書紀』では，吉備の６～７世紀は蘇我氏主導で児島・白猪の屯倉が設置され，この地域への影響を強めたと推定され，例えばハガ遺跡のような備前国府関連の遺跡のあり方にも影響を与えたと推定されている［草原2004］。

この時期の『日本書紀』（巻29）では682年には吉備諸国での大風・霜の被害が「霜降，亦大風，五穀不登」と記されている。また，684年には後にM8.4と推定される南海トラフ巨大地震の白鳳地震（天武地震）があったことが記されている。『日本書紀』での記載は以下の通りである。

「壬辰，逮于人定，大地震。舉國，男女叫唱不知東西，則山崩河涌，諸國郡官舍及百姓倉屋・寺塔神社，破壊之類不可勝數。由是，人民及六畜，多死傷之。時，伊豫湯泉，沒而不出，土左國田菀五十餘萬頃，沒爲海。古老曰，若是地動，未曾有也。是夕，有鳴聲如鼓，聞于東方，有人曰伊豆嶋西北二面，自然增益三百餘丈，更爲一嶋。則如鼓音者，神造是嶋響也。」

この天武地震の規模が大きく，当然旭東地域にも被害が及んだことが推定されている。この地震では，上東平野の寺院の損壊やこれ以後の施設の整備・土木・建築物の大型化との関連が推測される。

6．その後の歴史時代

現在も営々と信仰の火を灯し続ける浄土寺（No.1596）は，奈良時代開基の伝承と奈良時代以降の遺物・建物を残している。特に鎌倉時代初頭の1181年に東大寺大勧進職となった俊乗房重源の備前での活動拠点のひとつとなったと考えられる。大湯屋を有していた伝承と遺構とされる泉が残されている。東大寺瓦が出土しており，重源とのゆかりが遺物からも確認された。

大神神社（おおがじんじゃ）（図２No.1673付近，図１四御神の中心に位置する）は四御神381に現在鎮座するが，建立は平安時代初頭以前に遡ると考えられ，『特選神名牒』では奈良県桜井市三輪の大神神社（おおみわじんじゃ）と，大國主命の后神三穂津姫神を合わせ奉ったとされる。社地について，社記では「神妙ノ事アリテ」龍ノ口山東麓より現在の位置に移されたとされている。そのため，龍ノ口山東麓とこの神社及び四御神地域は密接な関係を有していると考えられる。

龍ノ口山城は龍ノ口城とも呼ばれ，16世紀の穀所元常（さいしょもとつね）の居城とされる山城・館・屋敷跡で，標高227mの龍ノ口山北側の別峰に築かれた。現在，龍之口八幡宮が本丸と考えられる位置に置かれている。北側に旭川，南側に龍ノ口山と岡山平野を臨む立地で，城郭に伴う縄張・土塁・堀切が遺存している。社伝では龍之口八幡宮の勧進は，天平勝宝（８世紀中頃）の時期と伝えられ，後に岡

山藩主池田家の崇敬を得て「正八幡大神」として祭祀・修繕が行われ，明治時代以降に「八幡宮」に改称された。

7．上道高島と神武東征神話

ここで，『古事記』『日本書紀』に記される神武東征神話に関連し，神武天皇が３年［日本書紀巻３：p.３］あるいは８年［古事記］滞在した吉備高島宮を，龍ノ口山南西麓の高島神社付近－上道高島－に求める考えがあることに触れたい［水藤1937］(註2)。春成［2014，2016］は，この神話の考証を行い，成立期は，６世紀以降としていることから，本稿ではこの内容についての言及を末尾とした。

日本書紀では「乙卯年春三月甲寅朔巳未，徙入吉備國，起行館宮以居之，是曰高嶋宮。積三年間，脩舟檝，蓄兵食，將欲以一舉而平天下也。」と記され，古事記では「於吉備之高嶋宮八年坐」と簡単に記述されている。

神武東征の聖蹟を調査するという目的の下で，紀元二千六百年奉祝会の委嘱を受け文部省が各地で文献を中心に調査を実施した。この調査は，関連した各地の郷土研究に強い影響を与えた。近年も神武東征神話を「日本遺産」とすることを目指して８府県19市町村が協議会を設立するという話題［産経新聞電子版2018年10月13日］があり，神武東征神話は古くて新しいテーマといえる。

ただし，神話と実際の遺跡を比較することは困難なのは常で，まして考古学的には天皇としての実在を辿ることに困難がある初代天皇(註3)の神話として，高島宮の比定地を実証的に検討することは極めて難しい上に，考古資料の解釈を神話に擬え祭祀に止まらず政治にさえ利用されかねない危険も有する［西川1975］。

吉備高島宮比定地は，旧国名で備前・備中・備後にわたり，春成［2014］に挙げられた主なもので備前では上道高島（岡山県岡山市中区賞田），甲浦高島（岡山県岡山市南区宮浦），本荘高島（岡山県倉敷市児島区塩生），備中では小田高島（岡山県笠岡市高島），備後では龍王山（広島県福山市柳津町），田尻（広島県福山市田尻町），田島（広島県福山市田島），水呑（広島県福山市水呑），高須（広島県尾道市高須町）といった複数の地点がある。1940年５月６日の官報3996号で「神武天皇聖蹟高嶋宮伝説地」として指定されたのは甲浦高島で，上道高島は指定されなかった。その理由は，寛永年間の『備前国絵図』に高島神社の名前が載っていないことと，文献上にも確たる徴証がないということ，高島神社の祭神に神武天皇が含まれていなかったというおよそ３点が挙げられる。

その議論の上で，実証性は問題にせずに神武東征神話の指し示す内容をみるならば，この神話で語られる「吉備高島」という地域は，船の整備に適した地であること，治世の要地であることが必要条件と推定され，この点では甲浦高島に引けを取らないと考えられる。特に吉備高島宮の神話では，造船に適した木材資源や工人が調達可能な地域であることが示されている。この神話が暗示する多数の外来者を受け入れられる吉備の国の豊かさと瀬戸内海に結ぶ港湾・造船技術の充実を満たす地域としては，確かにこの龍ノ口山に近い旭東平野は相応しい地域のひとつといえよう。ただし，神話の成立の要件を満たす地域としては，春成［2014］が論じた通り，本荘高島に代表される児島地域が第１に挙げられる。

註１　生物地球学部生物地球学科では以下の通り，龍ノ口山の考古学的調査を授業の一環として実施した。なお，*印は，ティーチングアシスタントとして参加してくれた修士課程の大学院生（当時）である。

①2012年12月14日
第１回　龍ノ口山グリーンシャワーの森測量調査
参加教員：富岡直人，白石　純
参加学生：内田涼太，鵜山研吾，岡澤祐里子，國弘和規，小西花歩，小松裕太，嶋田哲也，下村銀河，白土恭子，武田和真，豊原史陽，長井聡史，中山紗緒里，松下慧祐，宮﨑大輔，横谷真帆

②2013年12月19日
第２回　龍ノ口山グリーンシャワーの森測量調査
参加教員：富岡直人，白石　純
参加学生：岡澤祐里子，竹下隆嘉，武田和真，田中　諒

③2014年５月９日・５月20日
龍ノ口山南麓古墳群の分布状況観察
参加教員：富岡直人，白石　純
参加学生：足立　望*，江川達也*，青野将大，井上周馬，大久保享慶，大塚紘司，加島佳奈，加島菜穂，片山雄介，栗原隆史，澤山洸也，高尾今日子，蔦永早也香，原田大史，松野哲朗，宮前秀至，村上孝徳，柳田雅子，山地健太

④2014年12月19日
第３回　龍ノ口山グリーンシャワーの森測量調査
参加教員：富岡直人，白石　純
参加学生：足立　望*，江川達也*，片岡優太，小橋昌弘，髙田一博，谷口凛兵，野夫井香代

⑤2015年５月８日，16日
龍ノ口山南麓・竜の口山山頂古墳群測量調査
参加教員：富岡直人，白石　純
参加学生：足立　望*，江川達也*，東　武史，松葉洋平，松原洋光，河畠歩憂，駿河崇博，宮崎俊喜，徳丸義樹，西村龍太郎，萩原悠介，澤田健成，藤井琢也，吉越洸太朗，下坂泰聖，難波泰平，新坂　祥，荒井浩旺，寺田智也，前田　凌，森田大貴

⑥2017年５月19日
龍ノ口山南麓・竜の口山山頂古墳群測量調査
参加教員：富岡直人，白石　純
参加学生：江川達也*，井上陽生，大津拓哉，岡田知憲，

河岡弘樹，河北信彦，西村尚起，増山由衣，
水野雅彦，宮脇卓也，村松光汰，森田将吾，
山本　樹，渡辺直紀，小谷洋平

⑦2018年５月25日～６月３日
龍ノ口山南麓古墳群測量調査
参加教員：富岡直人
参加学生：稲岡　諒，植田啓豊，岡野貴章，雲井　花，坂本浩希，佐藤幹太，佐藤萌柚，永井友隆，山口皓平，山口雄大，山本圭祐，渡辺雅史

⑧2019年５月25日～６月22日
龍ノ口グリーンシャワーの森古墳群・龍ノ口山１号墳測量調査
参加教員：富岡直人
参加学生：愛知範大，上園健瑠，宇佐美礼恩，奥濱航輝，鍵山昌伯，神丸舜弥，小松仁湖，延原　愛，秦はるか，山本夏央，渡部賢人，安達由莉，大越　司，赤木大士，岩田有貴，大津拓哉，大庭史寛，小河優介，西田恭久，森田将吾

註２　本稿は吉備創生カレッジで行った「龍ノ口山の歴史遺産」と題した講演会をベースとしている。神武東征神話への言及は，当初の原稿にはなかったが，この講演会で会場から寄せられた質問への解答をベースに補筆した。

註３　井上光貞［1973］は，第10代とされる崇神天皇をヤマト王権の初の実在した天皇と考えている。

謝辞

以下の方々及び関係機関より御協力・御教示を頂き，本稿に関連する踏査・文献探索を実施し，データ類を得た。出宮徳尚，亀田修一，白石純，波田善夫，能美洋介，扇崎由，岡嶋隆司，山本悦世，清家章，野崎貴博，春成秀爾，大橋弘司，北川文夫，石垣忍，鑛山宗利，故村上鉄馬，故沼野謙二，龍ノ口グリーンシャワーを守る会，岡山理科大学生物地球学部，近畿中国森林管理局岡山森林管理署，高島・旭竜エコミュージアム，岡山市立高島公民館，岡山県立図書館，岡山市立中央図書館，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター，岡山市埋蔵文化財センター，岡山県古代吉備文化財センター，記して感謝申し上げます。さらに，数え切れない程繰り返した龍ノ口山踏査に参加してくれた多くの岡山理科大学の学部生，院生，環境考古学研究会のメンバーに感謝申し上げます。

引用文献

井上光貞　1973「謎の世紀」『日本の歴史１　神話から歴史へ』［中公文庫］：pp.248-365
井上頼圀検閲　1892『日本書紀』［菊園舎蔵版，岸本宗道出版］
井上頼圀検閲　1892「神日本磐余彦天皇－神武天皇」『日本書紀巻第三』［菊園舎蔵版，岸本宗道出版］：pp.1-18
伊藤　晃　1986「唐人塚古墳」『岡山県史　第18巻　考古資料』［岡山県］：p.274
岡山県史編纂委員会編　1986『岡山県史　第18巻　考古資料』［岡山県］
岡山県古代吉備文化財センター編　1997『百間川兼本遺跡３，百間川今谷遺跡３，百間川沢田遺跡４』岡山県埋蔵文化財調査報告書119［建設省岡山河川工事事務所］
岡山県古代吉備文化財センター編　2003『岡山県遺跡地図　第６分冊　岡山地区』［岡山県教育委員会］
岡山市教育委員会　1974『岡山市四御神上の山１号墳発掘調査報告』［岡山市］
鎌木義昌　1962「備前車塚古墳」『岡山市史（古代編）』［岡山市役所］：pp.134-148
河田健司他　2004『百間川沢田遺跡　原尾島ポンプ場建設に伴う発掘調査』［岡山市］
神田秀夫　校註　1968「神武天皇」『新注古事記』［大修館書店］：pp.66-77
木村幹夫　1973「沼貝塚」『上道町史』［岡山市］：pp.8-13
桑田俊明　1994『中井・南三反田遺跡　備前国府推定地　岡山県埋蔵文化財発掘調査報告　92』［岡山県教育委員会］
草原孝典　2004『ハガ遺跡　備前国府関連遺跡の発掘調査報告』［岡山市教育委員会］
葛原克人他　1972「雄町遺跡」『埋蔵文化財発掘調査報告書－山陽新幹線建設に伴う調査－』［岡山県教委］
近藤義郎・鎌木義昌　1986「備前車塚古墳」『岡山県史　第18巻考古資料』：pp.228-230
水藤千代造編　1937『高島村史』［吉備高島聖蹟顕彰会］
高田恭一郎他　2007『百間川兼基遺跡４，百間川沢田遺跡５　旭川放水路に伴う発掘調査　岡山県埋蔵文化財発掘調査報告208』［岡山県古代吉備文化財センター］
高畑知功他　1982『百間川兼基遺跡１，百間川今谷遺跡１　岡山県埋蔵文化財発掘調査報告51』［岡山県］
富岡直人　1998「岡山県岡山市津島東朝寝鼻貝塚の調査」岡山理科大学埋蔵文化財研究会
富岡直人　2000「瀬戸内海をめぐる縄文・弥生人の生活」『瀬戸内海』No.23（（社）瀬戸内海環境保全協会）：pp.30-35
富岡直人　2012「犬島貝塚の研究」『第14回　岡山学シンポジウム　瀬戸内海　～岡山沿岸地域を科学する　Part 1～』（岡山理科大学『岡山学』研究会）：pp.8-9
西川　宏　1975「幻の高島宮」『吉備の国』：pp.225-231
乗岡　実，行田裕美編　2000『吉備の古墳　上』［吉備考古ライブラリィ④］
春成秀爾　2014「吉備高嶋宮考」『日本考古学史研究』２－２：pp.1-16
春成秀爾　2016「神武東征伝と宗像女神」『広島大学大学院文学研究科考古学研究室50周年記念論文集・文集』：pp.433-454
平井　勝　他　1996『百間川兼基遺跡２，百間川今谷遺跡２』［岡山県教育委員会］
藤井裕之　2015「柱根の樹種について」『赤田東遺跡　－吉備中枢地における集落遺跡の発掘調査報告－』［岡山市教育委員会］pp.198-202
間壁忠彦　1999「吉備高島の遺跡」『東アジアの古代史』［古代学研究所］：pp.174-175
湊哲夫，亀田修一　2006『吉備の古代寺院』［吉備考古ライブラリィ⑬］
文部省　1940「彙報神武天皇聖蹟調査」『官報　1940年５月６日』：p.271
岡山全県統合型GIS　埋蔵文化財（遺跡）
http://www.gis.pref.okayama.jp/pref-okayama/Agreement?IsPost=False&MapId=15&RequestPage=%2fpref-okayama%2fPositionSelect%3fmid%3d15

付表　龍ノ口山及び周辺地域に分布する遺跡群（遺跡番号が図２の番号に符号する）
（岡山県古代吉備文化財センター2003，岡山全県統合型GIS　埋蔵文化財（遺跡）を一部改変）

整理番号，遺跡番号，種類，時代，所在地，概況，出土品，備考

1. 1572　未命名，祭祀（磐座），時代不明，牟佐，山腹。
2. 1573　塩見塚１号墳，古墳，古墳，矢津，山腹にある径12m，高1.5～3.5mの円墳。周溝あり。左袖式横穴式石室。石室全長8.4m。玄室長6.0m，玄室幅1.2m。
3. 1574　塩見塚２号墳，古墳，古墳，矢津，山腹にある径10m，高1.5～3.0mの円墳。無袖式の横穴式石室で，石室全8.7m，玄室幅１～1.3m。石室一部損壊。
4. 1575　塩見塚３号墳，古墳，古墳，矢津，山腹にある横穴式石室を伴う小円墳。
5. 1576　塩見塚４号墳，古墳，古墳，矢津，横穴式石室。
6. 1577　龍ノ口山城：所在地岡山市中区，城・館・屋敷，室町時代～江戸時代，遺跡概況，山頂。縄張・段取り遺存。
7. 1578　未命名，散布地，弥生，中原，龍之口八幡宮参道尾根先端。やや広い平坦面になり，弥生墳丘墓や集落の可能性がある。また，龍ノ口山城関連の郭の可能性も考えられる。
8. 1579　未命名，散布地，弥生・古墳，中原・段原，丘陵北側斜面の山林中の山道。
9. 1580　龍ノ口山１号墳，古墳，古墳，中原・段原，段原集落の谷筋の南斜面。龍ノ口山系に向かって南に谷状に入る地形。東南斜面に周溝が巡る円墳。横穴式石室。
10. 1581　※龍ノ口グリーンシャワーの森１号墳，古墳，グリーンシャワーの森駐車場からの谷筋の道沿い。径10mの円墳。横穴式石室全壊。羨道部と思われる石材残存。周溝あり。
11. 1582　※龍ノ口グリーンシャワーの森２号墳，古墳，グリーンシャワーの森駐車場からの谷筋の道沿い。円墳。径15m。横穴式石室全壊。中央に大きな窪みがあり，石室石材と思われる石露出。山側に幅３m程の周溝あり。
12. 1583　※龍ノ口グリーンシャワーの森３号墳，古墳，グリーンシャワーの森駐車場からの谷筋の道沿い。径５mの円墳。横穴式石室全壊。中央に大きな窪みあり。石室石材と思われる石材残存。
13. 1584　※龍ノ口グリーンシャワーの森４号墳，古墳時代後期，径15m。横穴式石室全壊？中央に窪みあり。石室石材と思われる石露出。山側に幅３m程の周溝あり。
14. 1585　※龍ノ口グリーンシャワーの森５号墳，古墳後期，グリーンシャワーの森駐車場からの谷筋の道沿い。円墳。径10m。横穴式石室全壊。削平のためか墳丘低い。周溝あり。中央に浅い窪み。
15. 1586　※龍ノ口グリーンシャワーの森６号墳，古墳時代後期，グリーンシャワーの森駐車場からの谷筋の道沿い。墳丘10m。横穴式石室全壊。墳丘中央を道に切られる。北側に煙突が付けられており，炭焼き窯に転用されたことがうかがわれる。
16. 1587　※龍ノ口グリーンシャワーの森７号墳，古墳時代後期，横穴式石室全壊。グリーンシャワーの森駐車場からの谷筋の道沿い。中央に窪み。谷側の１/３を道に切られる。
17. 1588　未命名，古墳，古墳，祇園，尾根上にある方墳。一辺12m，高1.5m，竪穴式石槨。
18. 1589　備前国総社，神社，江戸，祇園，古代備前国総社の後進の神社。境内は移動していない。江戸時代の本殿，幣殿，釣殿，拝殿，随身門が建っていたが，随身門以外焼失。
19. 1590　唐人塚古墳（市15-70）：岡山市中区賞田に所在する古墳時代終末期の円墳。墳丘は開墾と造成により原形を留めないが，南に開口する横穴式石室が現存する。石室は全長約９m，奥壁部の幅2.3mを測る。玄室内の奥壁寄りに，播磨竜山石製とされる凝灰岩製の刳抜式家形石棺の身部分のみが残されている。出土遺物は知られていない。切石に近い巨石を用いるなどの特徴からみて岡山県南部では類例の少ない終末期の古墳であり，東方に位置する賞田廃寺との関連もうかがわれる。
20. 1591　未命名，古墳，古墳，賞田，尾根上の小円墳。墳丘半壊。
21. 1592　未命名，散布地，古墳～室町，賞田，須恵器・土師器が散布。
22. 1593　未命名，古墳？古墓？古墳・鎌倉～室町，山腹に所在。
23. 1594　賞田廃寺，国史跡，白鳳時代の創建と考えられる備前地域最古の寺院跡。龍ノ口山南麓に位置し，昭和45年に発掘調査が行われ，塔基壇・金堂基壇・西門基壇や築地遺構の他，瓦窯も検出された。寺域であることが確認されたが，全体の伽藍配置は未確定。出土遺物には多数の瓦があり，飛鳥様式の軒丸瓦，白鳳時代前半から奈良時代にかけての多様な瓦のほかに，奈良三彩・緑釉陶器を含む土器類が多い。平成14・15年に史跡整備に伴う発掘調査が行われ，新たな成果が得られた。
24. 1595　賞田廃寺窯跡，窯，奈良，賞田，山麓にのこされた瓦窯，須恵器，緑釉陶器，瓦等出土。
25. 1596　浄土寺：社寺，奈良，平安，鎌倉，室町，遺跡概況，奈良時代に開基されたとの伝承あり。鎌倉時代初頭に俊乗坊重源の活動拠点となる。大湯屋あり。東大寺瓦出土。
26. 1597　未命名，散布地，古墳～室町，湯迫，龍ノ口山から南へ向かう緩斜面から裾にかけての地点。須恵器・土師器・備前焼が分布している。
27. 1598　祭祀，不明，湯迫，山頂に所在。

28. 1599　竜ノ口山頂１号墳，古墳後期，尾根稜線直下，山腹。径12m，高2.5mの小円墳。横穴式石室没。
29. 1600　竜ノ口山頂２号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８m，高２m。横穴式石室。石室全長４m以上，玄室幅１m。石室大きく破壊。
30. 1601　竜ノ口山頂３号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８m，高1.5m。横穴式石室埋没。石室大きく破壊。
31. 1602　竜ノ口山頂４号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８m。墳丘半ば流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長４m，玄室幅0.7m。石室破壊。
32. 1603　竜ノ口山頂５号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８m，高1.5m。墳丘流失。横穴式石室埋没。石室破壊。
33. 1604　竜ノ口山頂６号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８m，高２m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長５m，玄室幅0.95m。石室破壊。
34. 1605　竜ノ口山頂７号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長2.1m，玄室幅0.7m。
35. 1606　竜ノ口山頂８号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長2.3m，玄室幅0.7m。石室大きく破壊。
36. 1607　竜ノ口山頂９号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８m，高２m。墳丘流失。横穴式石室。石室全長3.3m以上，幅1.1m。石室破壊。
37. 1608　竜ノ口山頂10号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高１m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室全長４m以上。玄室幅0.8m。石室大きく破壊。
38. 1609　竜ノ口山頂11号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８m，高２m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長6.7m，玄室幅0.6～0.75m。石室一部破壊。
39. 1610　竜ノ口山頂12号墳，古墳後期，山腹。円墳。径７m，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長7.2m，玄室幅0.7m。石室破壊。
40. 1611　竜ノ口山頂13号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長3.7m。玄室幅0.6m。石室大きく破壊。
41. 1612　竜ノ口山頂14号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。横穴式石室。石室全長3.3m以上，玄室幅0.5m。石室大きく破壊。
42. 1613　竜ノ口山頂15号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長4.7m，玄室幅0.5m。石室一部破壊。
43. 1614　竜ノ口山頂16号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。横穴式石室。石室全長２m以上，玄室幅0.6m。石室大きく破壊。
44. 1615　竜ノ口山頂17号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長３m，玄室幅0.9m。石室一部破壊。
45. 1616　竜ノ口山頂18号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高２m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長3.9m，玄室幅0.7m。石室破壊。
46. 1617　竜ノ口山頂19号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室全長３m，玄室幅0.7m。石室破壊。
47. 1618　竜ノ口山頂20号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高１m。墳丘半ば流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長3.5m，玄室幅0.6m。石室破壊。
48. 1619　竜ノ口山頂21号墳，古墳後期，山腹。円墳。径10m，高２m。墳丘半ば流失。周溝残存。横穴式石室。石室全長６m，羨門幅0.9m。
49. 1620　竜ノ口山頂22号墳，古墳後期，山腹。円墳。径10m，高２m。墳丘半ば流失。周溝残存。横穴式石室。石室残存長４m，玄室幅0.8m。石室破壊。
50. 1621　竜ノ口山頂23号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８m，高２m。墳丘流失。横穴式石室。石室残存長５m，羨門幅0.95m。石室破壊。
51. 1622　竜ノ口山頂24号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８m，高２m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長5.7m，玄室幅0.7m。石室一部破壊。
52. 1623　竜ノ口山頂25号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長4.1m，玄室幅0.6m。石室一部破壊。
53. 1624　竜ノ口山頂26号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘一部流失。横穴式石室。石室全長2.8m以上，玄室幅0.7m。
54. 1625　竜ノ口山頂27号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長５m，玄室幅0.9m。
55. 1626　竜ノ口山頂28号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長3.3m，玄室幅0.45m。
56. 1627　竜ノ口山頂29号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高１m。横穴式石室。石室残存長3.3m，幅0.8m。
57. 1628　竜ノ口山頂30号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６m，高1.5m。墳丘流失。横穴式石室。石室全長２m以上，玄室幅0.5m。石室破壊。

58. 1629　竜ノ口山頂31号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６ｍ，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室全長3.8m，玄室幅0.65m。
59. 1630　竜ノ口山頂32号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８ｍ，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長４ｍ，玄室幅0.8m。
60. 1631　竜ノ口山頂33号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８ｍ，高1.5m。墳丘一部流失。周溝残存。横穴式石室。石室残存長4.3m，玄室幅0.85m。
61. 1632　竜ノ口山頂34号墳，古墳後期，山腹。円墳。径８ｍ，高２ｍ。墳丘一部流失。周溝残存。横穴式石室。石室残存長5.2m，玄室幅0.8m。
62. 1633　竜ノ口山頂35号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６ｍ，高1.5m。墳丘流失。無袖式の横穴式石室。石室残存長３ｍ，玄室幅0.35m。
63. 1634　竜ノ口山頂36号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６ｍ，高1.5mか。墳丘改変受ける。横穴式石室。石室大きく破壊。
64. 1635　竜ノ口山頂37号墳，古墳後期，山腹。円墳。径６ｍ，高２ｍ。墳丘流失。横穴式石室。石室全長3.6m以上，幅0.4m。
65. 1636　竜ノ口山頂38号墳，古墳後期，山腹。円墳。径10m，高2.5m。この古墳群の中で最大のもの。周溝残存。片袖式の横穴式石室。石室残存長8.5m，玄室長４ｍ，幅1.25m。
66. 1637　竜ノ口山頂39号墳，古墳後期，尾根稜線直下。円墳。径12m，高2.5m。無袖式の横穴式石室。石室残存長10.8m，玄室幅1.4m。石室一部破壊。
67. 1638　竜ノ口山頂40号墳，古墳後期，山腹。径10m，高1.5mの円墳。墳丘流失。片袖式の横穴式石室。石室残存長7.5m，玄室長5.2m，幅1.1m。
68. 1639　湯迫１号墳：古墳後期，尾根上。小円墳。横穴式石室。
69. 1640　湯迫２号墳：古墳後期，山腹。円墳。径８ｍ，高２ｍ。横穴式石室。石室残存長2.8m，玄室幅0.8m。石室大きく破壊。
70. 1641　湯迫３号墳：古墳後期，尾根上。小円墳。横穴式石室。
71. 1642　湯迫４号墳：古墳後期，尾根上。小円墳。横穴式石室。
72. 1643　湯迫５号墳：古墳後期，山麓。横穴式石室。石室残存長1.5m，玄室幅1.4m。石室大きく破壊。
73. 1644　湯迫６号墳：古墳後期，山麓。墳丘削平。横穴式石室。石室幅0.9m。石室大きく破壊。
74. 1645　湯迫７号墳：古墳後期，山麓。墳丘削平。横穴式石室。石室全長3.7m以上，玄室幅1.5m。埋没。石室大きく破壊。
75. 1646　湯迫８号墳：古墳後期，山麓。墳丘削平。横穴式石室。石室全長2.5m以上，玄室幅1.5m。埋没。石室大きく破壊。
76. 1647　未命名，散布地，古墳，古墳，湯迫，龍ノ口山南斜面の谷地形裾部で埴輪が採集されており，西側の湯迫古墳群との関連がうかがわれる。
77. 1648　未命名，散布地，奈良～平安時代，龍ノ口山から南への斜面。谷地形の裾。須恵器が採集されている。
78. 1649　備前車塚古墳：古墳時代前期前半，岡山市東方の龍ノ口山から南東に派生する尾根上に位置する吉備最古の古墳の内の１基。昭和42・43年に発掘調査が行われている。全長48mの前方後方墳。列石状に葺石が墳丘を２段に巡り，後方部に竪穴式石槨が構築されている。石槨は全長5.9m，幅1.3～1.2m，高さ1.5mを測る。この石槨は昭和30年代に盗掘され，京都椿井大塚山古墳と同氾の三角縁神獣鏡ほか鏡13面をはじめ多くの副葬品が出土したことで著名である。